

## 「14年目になったDX会」

2005年8月に設立したDX会（旧成人ディスレクシア当事者会）は数えて82回、会を開くことができました。2ヶ月に1度（2月・4月・6月・8月・10月・12月）、土曜日か日曜日の午後、2時間ぐらい、細く長く会を続けることを目標に、ここまで来ました。ディスレクシア（読み書き困難）の当事者はごく普通の人々には「なんでもない」、ささいな作業が苦手な人々です。過去の活動は↓  
[http://blog.livedoor.jp/npo\\_edge/archives/cat\\_50024738.html](http://blog.livedoor.jp/npo_edge/archives/cat_50024738.html)



### ○ 誉め合う

まずは自分の良いところを探し、誉める作業から始めました。「俺には良いところなんてありません」「いつも業務日誌を書くのだって辛くて」「時間通り目的地に着けない」など、自分の欠点ばかり並べていました。かたくなに自分を否定していた参加者に自信を持たせるのは容易ではありませんでした。

### ○ 自信を持つ

いろいろと良いところを探す作業をしているうちに、「単純作業が続けられる」「すぐ絵が描ける」「細かいミスを発見できる」など探すと出てくるものです。これを伸ばして行けば良いのです。少しでも出来ると大げさなぐらい誉め合いました。「すごい」「さすが」「キミのおかげで、みんなが幸福になれる」

### ○ 苦手なことを捨て、得意な分野を伸ばす

その際に、問題になるのは不得意な部分を修正させる日本の慣習から参加者の心が抜け出せないことでした。苦手なことを修正するより、得意な面を伸ばしたほうが、労力が少なく、しかも成功の可能性が高いことを納得するまで、しばらくかかりました。

### ○ 当事者によるサポートの意義と活動から見てきたこと

活動を14年間通じて、わかってきたことはディスレクシアの人々には自閉症、アスペルガー、ADHDなど、他の発達障害を併せ持っている例が多くありました。本来なら、すべての発達障害と向き合うのが理想ですが、限られた時間、人材、場所では難しくなってきました。そこで、ディスレクシアにこだわり続けることにしました。2018年3月から学習会「DX会サバイバル」を不定期で開催しています。

連絡先 [edgewebinfo@npo-edge.jp](mailto:edgewebinfo@npo-edge.jp)